

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 登録実用新案公報(U)

(11) 実用新案登録番号

實用新案登録第3147084号
(U3147084)

(45) 発行日 平成20年12月11日(2008.12.11)

(24) 登録日 平成20年11月19日 (2008.11.19)

(51) Int. Cl.

F 1

B65D 5/54 (2006.01)

B 6 5 D 5/54

$$Z$$

B65D 5/52 (2006.01)

B 6 5 D 5/52

$$Z$$

評価書の請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 20 頁)

(21) 出願番号 実願2008-6946 (U2008-6946)
(22) 出願日 平成20年10月2日 (2008.10.2)

(73) 実用新案権者 000129493
株式会社クラウン・パッケージ
愛知県小牧市小針三丁目67番地

(74) 代理人 100093931
弁理士 長屋 直樹

(72) 考案者 鹿児島 学
愛知県小牧市小針三丁目67番地 株式会社
クラウン・パッケージ内

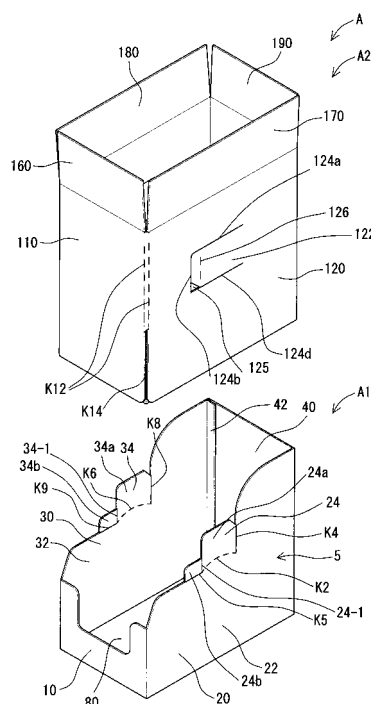
(54) 【考案の名称】 包装箱

(57) 【要約】

【課題】底面部と、内側スリーブ状部を有する内箱部で、内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着されている外箱部と、を有する包装箱において、片部を外箱部の外側側面部から容易に引き出すことができる包装箱を提供する。

【解決手段】切目線１２４ a、１２４ b、１２４ d等により形成される略コ字状の切目線における一部を切目線の代わりに開口部１２５として該開口部１２５に隣接した片部１２２が回動可能に形成され、分離部２４は、片部１２２と接着した分離部本体部２４ aと、開口部１２５の全体又は一部を内側から被覆する突出部２４ bとを有している。

【選択図】 図3



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

包装箱であって、

底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす複数の内側側面部からなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、少なくとも 2 つの内側側面部において、内側側面部の一部が分離部として内側側面部における分離部以外の部分である内側側面部本体部とミシン目を有する切目線を介して分離可能に形成された内箱部と、

内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して各内側側面部の外側の面に沿って設けられた外側側面部を有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切目線における一対の端部とは反対側の部分を切目線の代わりに開口部とすることにより該開口部に隣接した片部が水平方向に回動可能に形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されている外箱部と、

を有し、

該分離部が、該開口部の全部又は一部を内側から被覆して構成され、

開口部の位置から片部を外側に引き出した後に片部を水平方向に外側に回動させることにより、分離部が片部に接着した状態のまま内箱部から分離することを特徴とする包装箱。

【請求項 2】

包装箱であって、

略方形状の底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす内側スリーブ状部で、内側正面部と、相対する一対の内側側面部と、内側背面部とからなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、相対する一対の内側側面部において、内側側面部の一部が分離部として内側側面部における分離部以外の部分である内側側面部本体部とミシン目を有する切目線を介して分離可能に形成され、1 枚のブランクにより形成された内箱部と、

内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する内側正面部と一対の内側側面部と内側背面部の各部に対応して該各部の外側の面に沿って設けられた外側スリーブ状部で、内側正面部の外側の面に沿って形成された外側正面部と、一対の内側側面部における各内側側面部の外側の面に沿ってそれぞれ形成された外側側面部と、内側背面部の外側の面に沿って形成された外側背面部とを有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切目線における一対の端部とは反対側の部分を切目線の代わりに開口部とすることにより該開口部に隣接した片部が水平方向に回動可能に形成され、該片部の内側の面が分離部と接着され、1 枚のブランクにより形成された外箱部と、

を有し、

該分離部が、該開口部の全部又は一部を内側から被覆して構成され、

開口部の位置から片部を外側に引き出した後に片部を水平方向に外側に回動させることにより、分離部が片部に接着した状態のまま内箱部から分離することを特徴とする包装箱。

【請求項 3】

内箱部の底面部が、内側背面部から連設された片部と、一対の内側側面部のそれぞれが連設された片部と、下側正面部から連設された片部とにより構成され、内側背面部と一対の内側側面部と内側正面部とからなる構成を全体に略平板状となるように折り畳むことにより、底面部も折り畳んだ状態となり、内箱部を折り畳んだ状態とすることができるとを特徴とする請求項 2 に記載の包装箱。

【請求項 4】

内箱部における分離部が、該内側側面部本体部と切目線を介して連設された分離部本体部

と、分離部本体部から連設され該内側側面部本体部とは切込みにより分離して形成された突出部とを有し、該分離部本体部に片部が接着され、該突出部が、外箱部における開口部の全部又は一部を被覆していることを特徴とする請求項 1 又は 2 又は 3 に記載の包装箱。

【請求項 5】

外箱部における片部が、横方向に直線状に形成された第 1 切目線と、第 1 切目線の端部から縦方向に直線状に形成された第 2 切目線と、第 2 切目線の下端から連設された略直角三角形形状の開口部と、開口部の端部から横方向に第 1 切目線と平行に形成された第 3 切目線とにより形成され、該開口部の直角をなす辺部の一方が第 2 切目線の延長線上にあり、該開口部の直角をなす辺部の他方が第 3 切目線の延長線上にあることを特徴とする請求項 1 又は 2 又は 3 又は 4 に記載の包装箱。

10

【請求項 6】

外箱部における片部において、片部の先端の近傍に第 2 切目線と平行に折れ線が設けられ、該折れ線から基端側の領域に分離部が接着されていることを特徴とする請求項 5 に記載の包装箱。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、包装箱に関するものであり、複数の商品を集合して包装するとともに、包装箱の一部を分離させて商品を店頭等に陳列する包装箱に関するものである。

【背景技術】

20

【0002】

従来より、複数の商品を集合して包装するとともに、店頭等に陳列する包装箱として、出願人は、特許文献 1 の包装箱について出願をしている。すなわち、特許文献 1 は、包装箱であって、底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす複数の内側側面部からなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、少なくとも 2 つの内側側面部において、内側側面部の上端の領域の一部が分離部として他の部分とミシン目を有する切目線を介して分離可能に形成された内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して各内側側面部の外側の面に沿って設けられた外側側面部を有する外側スリーブ状部と、複数の外側側面部における少なくとも 1 つから連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切込みが、該略コ字状の切込みにより形成された片部が水平方向に回動可能となるように形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されている外箱部と、を有し、該略コ字状の切込みにより形成される片部を水平方向に外側に回動させることにより、分離部が片部に接着した状態のまま内箱部から分離することを特徴とするものである。

30

【0003】

また、出願人は、特許文献 2、特許文献 3 に記載の先行技術文献を知得している。

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 3 9 9 4 8 号公報

【特許文献 2】特開 2 0 0 3 - 1 2 8 0 5 1 号公報

【特許文献 3】特開 2 0 0 3 - 1 2 8 0 5 2 号公報

40

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【0004】

しかし、上記特許文献 1 に記載の包装箱においては、分離部を内箱部から分離する際に回動させる片部が略コ字状の切込みにより形成されているので、片部を外側に引き出すのが困難であるという問題があった。特に、特許文献 1 に記載の包装箱においては、回動する片部に隣接する片部を押し込むことにより回動する片部の端部を外側に引き出しやすいように構成しているが、内箱部に収納されている商品が外箱部の側面部の内側に沿ってびったり密接して収納されている場合には、回動する片部に隣接する片部を押し込むことができない場合があり、そのような場合には、回動する片部を外側に引き出すのが困難とな

50

る。

【 0 0 0 5 】

片部を外側に引き出すのが困難であると、分離部を内箱部から分離する操作に手間が掛かり、ひいては外箱部を内箱部から分離させて被収納物を収納した状態の内箱部を陳列するのに手間が掛かる。

【 0 0 0 6 】

そこで、本考案は、底面部と、内側スリーブ状部を有する内箱部で、内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着されている外箱部と、を有する包装箱において、片部を外箱部の外側側面部から容易に引き出すことができる包装箱を提供することを目的とする。

10

【課題を解決するための手段】

【 0 0 0 7 】

本考案は上記問題点を解決するために創作されたものであって、第1には、包装箱であって、底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす複数の内側側面部からなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、少なくとも2つの内側側面部において、内側側面部の一部が分離部として内側側面部における分離部以外の部分である内側側面部本体部とミシン目を有する切目線を介して分離可能に形成された内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して各内側側面部の外側の面に沿って設けられた外側側面部を有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切目線における一对の端部とは反対側の部分を切目線の代わりに開口部とすることにより該開口部に隣接した片部が水平方向に回動可能に形成され、該片部の内側の面が分離部と接着されている外箱部と、を有し、該分離部が、該開口部の全部又は一部を内側から被覆して構成され、

20

開口部の位置から片部を外側に引き出した後に片部を水平方向に外側に回動させることにより、分離部が片部に接着した状態のまま内箱部から分離することを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

30

この第1の構成の包装箱においては、蓋部を開けた状態として、包装箱の上方から複数の被収納物（商品）を内箱部に収納する。その後、蓋部を閉状態にして、接着テープにより蓋部を封止する。被収納物を包装箱に包装したら、被収納物を収納した包装箱を被収納物を陳列する場所に搬送する。その後、被収納物を陳列する場合には、外箱部を内箱部から分離する。すなわち、片部を水平方向に外側に回動させることにより、同時に分離部を区画する切目線が破れて、分離部が内箱部から分離し、回動させた片部に接着した状態で片部に従動する。そして、外箱部を上方に引き上げることにより、被収納物を収納した状態で、かつ、分離部が分離した状態の内箱部が残るので、被収納物を内箱部に収納した状態で被収納物を陳列する。

【 0 0 0 9 】

40

よって、包装箱に対して上方から被収納物である商品を収納して、蓋部を閉じて封止するのみであるので、容易に被収納物（商品）の梱包作業を行うことができ、また、片部を外側に回動させて、分離部を内箱部から分離して外箱部を上方に引き上げるのみで陳列することができるので、陳列作業を容易に行なうことができる。特に、外箱部において、片部が開口部に隣接して形成されているので、開口部に指を入れることにより片部を外側に引き出すのが容易であり、分離部を内箱部から分離する操作に手間が掛かることがなく、特に、内箱部に収納されている商品が外箱部の側面部の内側に沿ってぴったり密接して収納されている場合でも容易に片部を外箱部の外側側面部から容易に引き出すことができる。また、開口部の全部又は一部は分離部により内側から被覆されているので、開口部からゴミ等が入るおそれがない。

50

【 0 0 1 0 】

また、第 2 には、包装箱であって、略方形の底面部と、底面部の各辺から立設し底面部に対して略直角をなす内側スリーブ状部で、内側正面部と、相對する一對の内側側面部と、内側背面部とからなる内側スリーブ状部とを有し、上部が開口した内箱部で、相對する一對の内側側面部において、内側側面部の一部が分離部として内側側面部における分離部以外の部分である内側側面部本体部とミシン目を有する切目線を介して分離可能に形成され、1枚のブランクにより形成された内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内箱部の内側スリーブ状部を構成する内側正面部と一對の内側側面部と内側背面部の各部に対応して該各部の外側の面に沿って設けられた外側スリーブ状部で、内側正面部の外側の面に沿って形成された外側正面部と、一對の内側側面部における各内側側面部の外側の面に沿ってそれぞれ形成された外側側面部と、内側背面部の外側の面に沿って形成された外側背面部とを有する外側スリーブ状部と、外側スリーブ状部の上端から折れ線を介して連設された蓋部とを有し、内箱部における分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、略コ字状の切目線における一對の端部とは反対側の部分を切目線の代わりに開口部とすることにより該開口部に隣接した片部が水平方向に回動可能に形成され、該片部の内側の面が分離部と接着され、1枚のブランクにより形成された外箱部と、を有し、該分離部が、該開口部の全部又は一部を内側から被覆して構成され、開口部の位置から片部を外側に引き出した後に片部を水平方向に外側に回動させることにより、分離部が片部に接着した状態のまま内箱部から分離することを特徴とする。

10

【 0 0 1 1 】

20

この第 2 の構成の包装箱においては、蓋部を開けた状態として、包装箱の上方から複数の被収納物（商品）を内箱部に収納する。その後、蓋部を閉状態にして、接着テープにより蓋部を封止する。つまり、外箱部の外側正面部から上面を経て外側背面部側にまで接着テープを貼り付けることにより蓋部を封止する。被収納物を包装箱に包装したら、被収納物を収納した包装箱を被収納物を陳列する場所に搬送する。その後、被収納物を陳列する場合には、外箱部を内箱部から分離する。すなわち、片部を水平方向に外側に回動させることにより、同時に分離部を区画する切目線が破れて、分離部が内箱部から分離し、回動させた片部に接着した状態で片部に従動する。そして、外箱部を上方に引き上げることにより、被収納物を収納した状態で、かつ、分離部が分離した状態の内箱部が残るので、被収納物を内箱部に収納した状態で被収納物を陳列する。

30

【 0 0 1 2 】

よって、包装箱に対して上方から被収納物である商品を収納して、蓋部を閉じて封止するのみであるので、容易に被収納物（商品）の梱包作業を行うことができ、また、片部を外側に回動させて、分離部を内箱部から分離して外箱部を上方に引き上げるのみで陳列することができるので、陳列作業を容易に行なうことができる。特に、外箱部において、片部が開口部に隣接して形成されているので、開口部に指を入れることにより片部を外側に引き出すのが容易であり、分離部を内箱部から分離する操作に手間が掛かることがなく、特に、内箱部に収納されている商品が外箱部の側面部の内側に沿ってぴったり密接して収納されている場合でも容易に片部を外箱部の外側側面部から容易に引き出すことができる。また、開口部の全部又は一部は分離部により内側から被覆されているので、開口部からゴミ等が入るおそれがない。

40

【 0 0 1 3 】

また、第 3 には、上記第 1 又は第 2 の構成において、内箱部の底面部が、内側背面部から連設された片部と、一對の内側側面部のそれぞれが連設された片部と、下側正面部から連設された片部とにより構成され、内側背面部と一對の内側側面部と内側正面部とからなる構成を全体に略平板状となるように折り畳むことにより、底面部も折り畳んだ状態となり、内箱部を折り畳んだ状態とすることができることを特徴とする。よって、内箱部を平板状に折り畳むことが可能となる。

【 0 0 1 4 】

また、第 4 には、上記第 1 から第 3 までのいずれかの構成において、内箱部における分

50

離部が、該内側側面部本体部と切目線を介して連設された分離部本体部と、分離部本体部から連設され該内側側面部本体部とは切込みにより分離して形成された突出部とを有し、該分離部本体部に片部が接着され、該突出部が、外箱部における開口部の全部又は一部を被覆していることを特徴とする。よって、突出部は該内側側面部本体部と切込みを介して分離しており、分離部本体部のみが切目線を介して他の部分と連設されているので、分離部の分離を容易に行なうことができる。

【 0 0 1 5 】

また、第 5 には、上記第 1 から第 4 までのいずれかの構成において、外箱部における片部が、横方向に直線状に形成された第 1 切目線と、第 1 切目線の端部から縦方向に直線状に形成された第 2 切目線と、第 2 切目線の下端から連設された略直角三角形形状の開口部と、開口部の端部から横方向に第 1 切目線と平行に形成された第 3 切目線とにより形成され、該開口部の直角をなす辺部の一方が第 2 切目線の延長線上にあり、該開口部の直角をなす辺部の他方が第 3 切目線の延長線上にあることを特徴とする。

10

【 0 0 1 6 】

また、第 6 には、上記第 5 の構成において、外箱部における片部において、片部の先端の近傍に第 2 切目線と平行に折れ線が設けられ、該折れ線から基端側の領域に分離部が接着されていることを特徴とする。よって、片部の折れ線よりも先端側を容易に外側に引き出すことができる。

【 0 0 1 7 】

なお、以下の構成としてもよい。すなわち、第 7 には、上記第 2 の構成において、外箱部における外側スリーブ状部を構成する各部の境界位置における少なくとも 2 つの境界位置には、下端から上方に伸びる切込み又は切欠が形成されていることを特徴とする。よって、外箱部を内箱部に対して容易に上方に引き上げることができる。

20

【 0 0 1 8 】

また、第 8 には、上記第 2 又は第 3 の構成において、上記外箱部における蓋部は、予め外側スリーブ状部から上方に立設して形成され、包装箱の上方が予め開口していることを特徴とする。

【 0 0 1 9 】

また、第 9 には、上記第 2 から第 4 までのいずれかの構成において、上記内箱部の底面部は、内側スリーブ状部を構成する部材（以下、内側スリーブ状部構成部材とする）である内側正面部と一对の内側側面部と内側背面部における各部の 1 つの下端から連設され、内箱部の内底面を形成する略四角形状の底面本体部と、底面本体部が連設された内側スリーブ状構成部材と相対する内側スリーブ状構成部材の下端から連設された副体部と、底面本体部が連設された内側スリーブ状構成部材と隣接する 2 つの内側スリーブ状構成部材の下端からそれぞれ連設された接続片部で、その一方が底面本体部に接着され、他方が副体部に接着されていて、内側スリーブ状部が略平板状になるように折り畳むことにより、底面本体部と副体部とが内側スリーブ状部内に 4 つの内側スリーブ状構成部材と略平行な状態となり、内箱部が全体に略平板状に折り畳むことができることを特徴とする。

30

【 考案の効果 】

【 0 0 2 0 】

本考案に基づく包装箱によれば、包装箱に対して上方から被収納物である商品を収納して、蓋部を閉じて封止するのみであるので、容易に被収納物（商品）の梱包作業を行うことができ、また、片部を外側に回動させて、分離部を内箱部から分離して外箱部を上方に引き上げるのみで陳列することができるので、陳列作業を容易に行なうことができる。特に、外箱部において、片部が開口部に隣接して形成されているので、開口部に指を入れることにより片部を外側に引き出すのが容易であり、分離部を内箱部から分離する操作に手間が掛かることがない。また、開口部の全部又は一部は分離部により内側から被覆されているので、開口部からゴミ等が入るおそれがない。

40

【 考案を実施するための最良の形態 】

【 0 0 2 1 】

50

本考案においては、底面部と、内側スリーブ状部を有する内箱部で、内側スリーブ状部の内側側面部の一部が分離部として他の部分と切目線を介して分離可能な内箱部と、内箱部を覆う外箱部で、内側スリーブ状部を構成する各内側側面部に対応して外側側面部を有する外側スリーブ状部と、蓋部とを有し、分離部が設けられた内側側面部に対応した外側側面部には、切目線により形成された片部が分離部と接着されている外箱部と、を有する包装箱において、片部を外箱部の外側側面部から容易に引き出すことができる包装箱を提供するという目的を以下のようにして実現した。

【0022】

本考案に基づく包装箱 A は、図 1 ~ 図 8 等に示すように構成され、図 1、図 3、図 4、図 10、図 13 等に示すように、内箱部 A 1 と、外箱部 A 2 とを有して、それぞれが 1 枚のシート状のブランク（具体的には、段ボール、厚紙等）により形成されている。

10

【0023】

なお、図 6 ~ 図 8 に示す展開図においては、折れ線は点線で示され、ミシン目等の切込み線は、折れ線よりも太い点線により示している。

【0024】

内箱部 A 1 は、全体に上部が開口した容器状を呈し、図 3、図 6 等に示すように、スリーブ状部（内側スリーブ状部）5 と、底面部 50 とを有している。スリーブ状部 5 は、組立て状態では、底面部 50 の周囲から立設して形成され、正面部（内側正面部）10 と、側面部（内側側面部）20 と、側面部（内側側面部）30 と、背面部（内側背面部）40 と、糊代部 42 とを有して、その展開状態は、図 6 に示すように形成されている。

20

【0025】

ここで、正面部 10 は、方形状の上側に略方形状の切欠部 12 が形成された凹状を呈し、上方が開口した略コ字状を呈している。

【0026】

また、側面部 20 は、正面部 10 の正面視における右側の端部から折れ線を介して連設され、方形状における上側の一部を切り欠いた形状を呈し、その上端の縁部は、凹凸形状に形成され、正面側の端部においては、正面部 10 における正面視右端の縁部と同じ高さに形成され、背面側の端部においては、背面部 40 の上端の縁部の高さと同じに形成されている。この側面部 20 は、本体部 22 と、分離部 24 とを有し、側面部 20 の上端の領域の一部にミシン目 K 2 と切込み K 4 と切込み K 5 とからなる境界線で区画することにより、本体部（内側側面部本体部）22 と、分離部 24 とが形成されている。すなわち、ミシン目 K 2 は、横方向（略水平方向）に略円弧状に形成され、切込み K 4 は、ミシン目 K 2 の背面側の端部から垂直方向（つまり、水平方向（側面部 20 の下辺の方向）に直角の方向）に直線状に形成され、切込み K 5 は、ミシン目 K 2 の正面側の端部から水平方向に形成されている。つまり、分離部 24 は、側面部 20 の上端の領域の一部、すなわち、正面部側の端部から背面部側の端部にまでの上端の縁部に接する領域に形成され、本体部 22 とミシン目 K 2 を介して分離可能に形成されている。

30

【0027】

分離部 24 は、分離部本体部 24 a と突出部 24 b とを有し、分離部本体部 24 a は、正面側と上面側と背面側が直線状に形成され、下面側が円弧状に形成されるとともに、背面側の上端に略直角三角形形状の切欠部が形成されていて、全体に略方形状の下端に円弧状の切欠部が形成された形状となっている。分離部 24 の上辺は水平方向に形成され、正面側と背面側の辺部は垂直方向に形成されている。つまり、分離部本体部 24 a の下辺はミシン目 K 2 により形成され、分離部本体部 24 a の背面側の辺部は切込み K 4 により形成されている。突出部 24 b は、分離部本体部 24 a の正面側の下端位置から折れ線 24 - 1（垂直方向の折れ線）を介して正面側に突出して形成され、略方形状を呈している。つまり、分離部本体部 24 a と突出部 24 b 間には、垂直方向に折れ線が形成されている。突出部 24 b の下辺は、切込み K 5 により形成されている。この突出部 24 b は、後述する外箱部 A 2 の側面部 120 に設けられた開口部 125 の全部又は一部を内側から被覆することができるように開口部 125 の位置に設けられている。つまり、突出部 24 b は、

40

50

開口部 1 2 5 よりも大きく形成されている。なお、図 7 に示すように、分離部 2 4 が片部 1 2 2 に接着され内箱部 A 1 と外箱部 A 2 とを一体にした状態では、突出部 2 4 b の先端は、外箱部 A 2 の切込み 1 2 4 b よりも正面側とするのが好ましくこれにより、開口部 1 2 5 のなるべく広い面積を被覆することができる。

【 0 0 2 8 】

分離部 2 4 の形状は、外箱部 A 2 の側面の片部 1 2 2 を外側に回動させることにより、分離部 2 4 を本体部 2 2 から分離し、その後、外箱部 A 2 を上方に引き上げる際に支障とならないように形成されている。つまり、分離された分離部 2 4 が本体部 2 2 に対して上方に移動する際に支障とならないように、分離部 2 4 は、側面部 2 0 の上端の領域の一部、すなわち、側面部 2 0 の正面側の端部から背面側の端部までの上端の縁部に接する領域の一部に設けられ、ミシン目 K 2 や切込み K 4 は水平方向（側面部 2 0 の下辺の方向）に対して 9 0 度以下に形成されている。例えば、図 7 に示すように、ミシン目 K 2 の水平方向に対する角度 $\alpha 1$ 、 $\alpha 2$ は 9 0 度以下に形成され（特に、 $\alpha 2$ はマイナスの角度である）、また、切込み K 4 の水平方向に対する角度 $\alpha 3$ も 9 0 度以下に形成されている。仮に、切込み K 4 の角度が 9 0 度よりも大きくなってしまうと、分離部 2 4 を本体部 2 2 に対して上方に移動させる際に、本体部 2 2 が支障となってしまうが、本実施例の場合にはそのようなおそれがない。

【 0 0 2 9 】

本体部 2 2 は、側面部 2 0 における分離部 2 4 以外の部分であり、本体部 2 2 の形状としては、上端の縁部が、ミシン目 K 2 と切込み K 4 の境界を介して、略水平方向に形成された部分 F 1 と、円弧状に立ち上がる部分 F 2 とから構成されていて、全体に略 L 字状を呈し、その屈曲部の内側に分離部 2 4 が形成されているといえる。この分離部 2 4 の形成位置は、外箱部 A 2 の片部 1 2 2 の裏側の領域であり、分離部 2 4 における分離部本体部 2 4 a は片部 1 2 2 の裏側に接着され、片部 1 2 2 を外側に回動させることにより、分離部 2 4 も片部 1 2 2 の裏側に接着したままミシン目 K 2 が破断されて、分離部 2 4 が本体部 2 2 から分離するように形成されている。分離部本体部 2 4 a は、片部本体部 1 2 2 a（後述）よりも小さく形成されていて、分離部本体部 2 4 a の外形が片部本体部 1 2 2 a の外形よりもはみだすことがない。なお、分離部本体部 2 4 a の下端位置が片部本体部 1 2 2 a の下端位置と略一致させることにより、突出部 2 4 b が開口部 1 2 5 を内側から被覆することができる。なお、分離部 2 4 と本体部 2 2 との境界をなすミシン目 K 2 と切込み K 4 と切込み K 5 は、上記切目線となる。

【 0 0 3 0 】

また、側面部 3 0 は、正面部 1 0 の正面視における左側の端部から折れ線を介して連設され、方形状における上側の一部を切り欠いた形状を呈し、本体部 3 2 と、分離部 3 4 とを有し、側面部 3 0 の上端の領域の一部にミシン目 K 6 と切込み K 8 と切込み K 9 とからなる境界線で区画することにより、本体部 3 2 と、分離部 3 4 とが形成されている。この側面部 3 0 の構成は、側面部 2 0 と前後方向に垂直な仮想的な平面である中心面を介して対称に形成されていて、本体部 3 2 は本体部 2 2 と対称に形成され、分離部 3 4 は分離部 2 4 と対称に形成されていることから詳しい説明を省略する。

【 0 0 3 1 】

なお、分離部 3 4 は、分離部本体部 3 4 a と突出部 3 4 b とを有し、分離部本体部 3 4 a は、正面側と上面側と背面側が直線状に形成されるとともに、下面側が円弧状に形成されていて、全体に略方形状の下端に円弧状の切欠部が形成された形状となっている。つまり、分離部本体部 3 4 a の下辺はミシン目 K 6 により形成され、分離部本体部 3 4 a の背面側の辺部は切込み K 8 により形成されている。突出部 3 4 b は、分離部本体部 3 4 a の正面側の下端位置から折れ線 3 4 - 1 を介して正面側に突出して形成され、略方形状を呈している。突出部 3 4 b の下辺は、切込み K 9 により形成されている。

【 0 0 3 2 】

また、分離部 3 4 の形成位置は、外箱部 A 2 の片部 1 3 2 の裏側の領域であり、分離部 3 4 における分離部本体部 3 4 a は片部 1 3 2 の裏側に接着され、片部 1 3 2 を外側に回

10

20

30

40

50

動させることにより、分離部 3 4 も片部 1 3 2 の裏側に接着したままミシン目 K 6 が破断されて、分離部 3 4 が本体部 3 2 から分離するように形成されている。なお、分離部 3 4 と本体部 3 2 との境界をなすミシン目 K 6 と切込み K 8 と切込み K 9 は、上記切目線となる。なお、分離部 2 4、3 4 において、折れ線 2 4 - 1、3 4 - 1 は省略してもよい。

【0033】

また、背面部 4 0 は、側面部 2 0 の右側面視における右端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形）を呈している。この背面部 4 0 の横幅は、正面部の横幅と同一に形成され、背面部 4 0 の縦幅は、側面部 2 0、3 0 の縦幅（最大縦幅）と同一に形成されている。

【0034】

また、糊代部 4 2 は、側面部 3 0 の左側面視における左端から折れ線を介して連設され、縦方向に細長の帯状台形状を呈している。この糊代部 4 2 は、図 3 に示すように、その外側の面が背面部 4 0 の内側の面に接着されている。

【0035】

また、底面部 5 0 は、接続片部 6 0 と、本体部 7 0 と、副体部 8 0 と、接続片部 9 0 とを有し、包装箱 A の組立て状態においては、図 5 に示すように、略方形状を呈している。ここで、接続片部 6 0 は、正面部 1 0 の下端から折れ線を介して連設され、先端側にいくほど幅狭となる略台形状に形成されている。また、本体部 7 0 は、側面部 2 0 の下端から折れ線を介して連設され、略長方形に形成され、本体部 7 0 のその上面が内箱部 A 1 の内底面を形成している。また、本体部 7 0 の角部（側面部 2 0 と背面部 4 0 の境界位置の角部）からは本体部 7 0 の側面部 2 0 との境界をなす辺部に対して斜めに所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）折れ線 7 0 - 1（この折れ線 7 0 - 1 は、上面側が山折れ線となっている）が形成され、内箱部 A 1 を折り畳む際に、容易に折り畳むことができるようになっている。本体部 7 0 は、折れ線 7 0 - 1 を介して本体部 7 2 と先端部 7 4 とに区画される。

【0036】

また、副体部 8 0 は、側面部 3 0 の下端から折れ線を介して連設され、細長の長方形の長手方向の一方の端部において側面部 3 0 との境界線とは反対側に略台形状に突出させた形状を呈し、副体部 8 0 の角部（側面部 3 0 と正面部 1 0 の境界位置の角部）からは副体部 8 0 の側面部 3 0 との境界をなす辺部に対して斜めに所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）折れ線 8 0 - 1（この折れ線 8 0 - 1 は、上面側が山折れ線となっている）が形成され、この折れ線 8 0 - 1 を介して先端側が先端部 8 4 を構成し、折れ線 8 0 - 1 を介して基端側が基端部 8 2 を構成する。この先端部 8 4 は、図 5 に示すように、その上面側が、先端部 8 4 の辺部 8 4 a が正面部 1 0 と接続片部 6 0 の境界線に対して平行になるように、接続片部 6 0 の下面に接着されている。

【0037】

また、接続片部 9 0 は、背面部 4 0 の下端から折れ線を介して連設され、略台形状を呈し、この接続片部 9 0 の角部（側面部 2 0 と背面部 4 0 の境界位置の角部）からは接続片部 9 0 の背面部 4 0 との境界をなす辺部に対して斜めに所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）折れ線 9 0 - 1（この折れ線 9 0 - 1 は、上面側が山折れ線となっている）が形成され、この折れ線 9 0 - 1 を介して先端側が先端部 9 4 を構成し、折れ線 9 0 - 1 を介して基端側が基端部 9 2 を構成する。この先端部 9 4 は、図 5 に示すように、その上面側が、先端部 9 4 の辺部 9 4 a が側面部 2 0 と本体部 7 0 の境界線に対して平行になるように、本体部 7 0（特に、本体部 7 2）の下面に接着されている。

【0038】

内箱部 A 1 を箱状に組み立てた状態では、正面部 1 0 と背面部 4 0 とが互いに平行になり、側面部 2 0 と側面部 3 0 とが互いに平行になり、底面部 5 0 を構成する各部材は、正面部 1 0、側面部 2 0、3 0、背面部 4 0 に対して略直角（直角でもよい）となる。また

10

20

30

40

50

、スリーブ状部 5 を構成する各部材（正面部 1 0、側面部 2 0、3 0、背面部 4 0）における隣接する部材は互いに直角となっている。また、内箱部 A 1 は、平板状に折り畳むことができ、正面部 1 0 と側面部 3 0 との角度を小さくし、背面部 4 0 と側面部 2 0 との角度を小さくさせるとともに、本体部 7 0 を上方に回転させて本体部 7 0 が側面部 2 0 に対して略平行になるようにすることにより、図 1 0 に示すように、内箱部 A 1 が全体に平板状に折り畳むことができる。また、内箱部 A 1 を折り畳んだ状態では、底面部 5 0 を構成する各部は、スリーブ状部 5 内にスリーブ状部 5 を構成する正面部 1 0、側面部 2 0、3 0、背面部 4 0 に対して略平行な状態となる。

【0039】

なお、正面部 1 0 と側面部 2 0、3 0 と背面部 4 0 は、請求項 1 における内側側面部を構成する。

10

【0040】

次に、外箱部 A 2 は、内箱部 A 1 を覆う箱体であり、図 1 ~ 図 4、図 8 等に示すように、スリーブ状部（外側スリーブ状部）1 0 5 と、上面部 1 6 0、1 7 0、1 8 0、1 9 0 とを有していて、その展開状態は、図 8 に示すように形成されている。

【0041】

ここで、スリーブ状部 1 0 5 は、組み立てた状態では、四角形状の筒状を呈し、正面部（外側正面部）1 1 0 と、側面部（外側側面部）1 2 0 と、側面部（外側側面部）1 3 0 と、背面部（外側背面部）1 4 0 とを有している。

【0042】

20

ここで、正面部 1 1 0 は、方形状（長方形）の板状を呈している。この正面部 1 1 0 の横幅は、内箱部 A 1 を外箱部 A 2 内に収納することができるように、正面部 1 0 の横幅よりも若干大きく形成されている。

【0043】

また、側面部 1 2 0 は、正面部 1 1 0 の正面視における右側の端部から折れ線 K 1 2 を介して連設され、方形状を呈し、片部 1 2 2 と、開口部 1 2 5 が形成されている。

【0044】

ここで、片部 1 2 2 は、横方向（側面部 1 2 0 の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第 1 切目線 1 2 4 a と、第 1 切目線 1 2 4 a の端部（右側面視における左側の端部）から下側に向けて縦方向（側面部 1 2 0 の下辺と略直角な方向）に形成された直線状の第 2 切目線 1 2 4 b と、第 2 切目線 1 2 4 b の下端に連設された開口部 1 2 5 における傾斜した辺部 1 2 4 c と、開口部 1 2 5 の背面側の端部から連設され横方向（側面部 1 2 0 の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第 3 切目線 1 2 4 d と、第 1 切目線 1 2 4 a 及び第 3 切目線 1 2 4 d の第 2 切目線 1 2 4 b 側とは反対側の端部を結ぶ仮想上の直線により囲まれている。第 1 切目線 1 2 4 a と第 3 切目線 1 2 4 d は、一部がミシン目状につながった切込みにより構成されている。

30

【0045】

また、この片部 1 2 2 には、辺部 1 2 4 c の下端位置から垂直方向に伸びた折れ線 1 2 6 が設けられており、片部 1 2 2 における折れ線 1 2 6 よりも基端側が片部本体部 1 2 2 a となり、片部 1 2 2 における折れ線 1 2 6 よりも先端側が片部先端部 1 2 2 b となる。

40

【0046】

開口部 1 2 5 は、直角三角形を呈し、第 2 切目線 1 2 4 b の延長線となる辺部 1 2 5 a と、第 3 切目線 1 2 4 d の延長線となる辺部 1 2 5 b と、上記辺部 1 2 4 c とで囲まれて形成されている。この開口部 1 2 5 は、指を入れて片部先端部 1 2 2 b を外側に起こすことができる大きさに形成されている。

【0047】

ここで、第 1 切目線 1 2 4 a と、第 2 切目線 1 2 4 b と、辺部 1 2 5 a と、辺部 1 2 5 b と、第 3 切目線 1 2 4 d とで、略コ字状に形成されているといえる。

【0048】

以上のように、側面部 1 2 0 には、略コ字状の切目線における一对の端部とは反対側の

50

部分を切目線の代わりに開口部とすることにより片部 1 2 2 と開口部 1 2 5 が形成されているといえる。

【 0 0 4 9 】

なお、この側面部 1 2 0 の横幅は、内箱部 A 1 を外箱部 A 2 内に収納することができるように、側面部 2 0 の横幅よりも若干大きく形成されている。

【 0 0 5 0 】

なお、正面部 1 1 0 と側面部 1 2 0 の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線 K 1 2 が互いに平行に 2 本形成されている。また、側面部 1 2 0 と正面部 1 1 0 の間の位置における下側には、縦長の切欠部 K 1 4 が形成されている。

10

【 0 0 5 1 】

また、側面部 1 3 0 は、正面部 1 1 0 の正面視における左側の端部から折れ線 K 1 6 を介して連設され、方形状を呈していて、片部 1 3 2 と、開口部 1 3 5 が形成されている。

【 0 0 5 2 】

この側面部 1 3 0 の構成は、側面部 1 2 0 と前後方向に垂直な仮想的な平面である中心面を介して対称に形成されていて、片部 1 3 2 は、片部 1 2 2 と対称に形成され、開口部 1 3 5 は、開口部 1 2 5 と対称に形成されている。

【 0 0 5 3 】

すなわち、片部 1 3 2 は、横方向（側面部 1 3 0 の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第 1 切目線 1 3 4 a と、第 1 切目線 1 3 4 a の端部（左側面視における右側の端部）から下側に向けて縦方向（側面部 1 3 0 の下辺と略直角な方向）に形成された直線状の第 2 切目線 1 3 4 b と、第 2 切目線 1 3 4 b の下端に連設された開口部 1 3 5 における傾斜した辺部 1 3 4 c と、開口部 1 3 5 の背面側の端部から連設され横方向（側面部 1 3 0 の下辺と略平行な方向）に形成された直線状の第 3 切目線 1 3 4 d と、第 1 切目線 1 3 4 a 及び第 3 切目線 1 3 4 d の第 2 切目線 1 3 4 b 側とは反対側の端部を結ぶ仮想上の直線により囲まれている。第 1 切目線 1 3 4 a と第 3 切目線 1 3 4 d は、一部がミシン目状につながった切込みにより構成されている。

20

【 0 0 5 4 】

また、この片部 1 3 2 には、辺部 1 3 4 c の下端位置から垂直方向に伸びた折れ線 1 3 6 が設けられており、片部 1 3 2 における折れ線 1 3 6 よりも基端側が片部本体部 1 3 2 a となり、片部 1 3 2 における折れ線 1 3 6 よりも先端側が片部先端部 1 3 2 b となる。

30

【 0 0 5 5 】

開口部 1 3 5 は、直角三角形を呈し、第 2 切目線 1 3 4 b の延長線となる辺部 1 3 5 a と、第 3 切目線 1 3 4 d の延長線となる辺部 1 3 5 b と、上記辺部 1 3 4 c とで囲まれて形成されている。

【 0 0 5 6 】

ここで、第 1 切目線 1 3 4 a と、第 2 切目線 1 3 4 b と、辺部 1 3 5 a と、辺部 1 3 5 b と、第 3 切目線 1 3 4 d とで、略コ字状に形成されているといえる。

【 0 0 5 7 】

以上のように、側面部 1 3 0 には、略コ字状の切目線における一对の端部とは反対側の部分を切目線の代わりに開口部とすることにより片部 1 3 2 と開口部 1 3 5 が形成されているといえる。

40

【 0 0 5 8 】

なお、正面部 1 1 0 と側面部 1 3 0 の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線 K 1 6 が形成されている。また、側面部 1 3 0 と正面部 1 1 0 の間の位置における下側には、縦長の切欠部 K 1 8 が形成されている。

【 0 0 5 9 】

また、背面部 1 4 0 は、側面部 1 2 0 の右側面視における右端から折れ線 K 2 0 を介して連設され、方形状を呈している。この背面部 1 4 0 の横幅は、内箱部 A 1 を外箱部 A 2

50

内に収納することができるように、背面部 4 0 の横幅よりも若干大きく形成されている。

【 0 0 6 0 】

なお、側面部 1 2 0 と背面部 1 4 0 の境界位置には、所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の折れ線 K 2 0 が形成されている。

【 0 0 6 1 】

また、糊代部 1 4 2 は、背面部 1 4 0 の背面視における右端から折れ線（所定間隔で切込みが形成された（つまり、折曲しやすいように切込みが形成されている）直線状の 2 本の互いに平行な折れ線 K 2 2 ）を介して連設され、縦方向に細長の帯状台形状を呈している。この糊代部 1 4 2 は、図 2 に示すように、その内側の面が側面部 1 3 0 の外側の面に接着されている。

10

【 0 0 6 2 】

また、正面部 1 1 0 と側面部 1 2 0、1 3 0 と背面部 1 4 0 の縦幅は同一に形成されていて、内箱部 A 1 の縦幅と同一又は若干大きく形成されている。

【 0 0 6 3 】

また、上面部 1 6 0 は、正面部 1 1 0 の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。また、上面部 1 7 0 は、側面部 1 2 0 の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。この上面部 1 7 0 と上面部 1 6 0 との間には隙間が形成されている。また、上面部 1 8 0 は、側面部 1 3 0 の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。この上面部 1 8 0 と上面部 1 6 0 との間には隙間が形成されている。また、上面部 1 9 0 は、背面部 1 4 0 の上端から折れ線を介して連設され、方形状（長方形状）を呈している。これら 4 つの上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 は、外箱部 A 2 の上面を開閉するものであり、特に、上面部 1 7 0 と上面部 1 8 0 を閉状態とすることにより外箱部 A 2 の上面が塞がれる。つまり、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 は、蓋部を構成する。なお、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 は、予め上方に立設した状態になっていて、外箱部 A 2 の上方が開口した状態になっている。また、外箱部 A 2 の展開状態においては、図 8 に示すように、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 における隣接した上面部においては、隙間 K 2 4、K 2 6、K 2 8 が形成されている。なお、蓋部としての上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 はスリーブ状部 1 0 5 の上端の各辺から連設されているが、少なくとも 1 つの上面部から連設されていればよい。

20

30

【 0 0 6 4 】

なお、正面部 1 1 0 と側面部 1 2 0、1 3 0 と背面部 1 4 0 は、請求項 1 における外側側面部を構成する。

【 0 0 6 5 】

外箱部 A 2 を箱状に組み立てた状態では、正面部 1 1 0 と背面部 1 4 0 とが互いに平行になり、側面部 1 2 0 と側面部 1 3 0 とが互いに平行になる。また、スリーブ状部 1 0 5 を構成する各部材（正面部 1 1 0、側面部 1 2 0、1 3 0、背面部 1 4 0）における隣接する部材は互いに直角となっている。

【 0 0 6 6 】

次に、内箱部 A 1 と外箱部 A 2 とは、分離部 2 4、3 4 の箇所で互いに接着されている。つまり、分離部本体部 2 4 a の外側の面と片部 1 2 2 の内側の面とが接着剤その他の接着手段により接着されるとともに、分離部本体部 3 4 a の外側の面と片部 1 3 2 の内側の面とが接着剤その他の接着手段により接着されることにより、包装箱 A が全体に一体に形成される。つまり、分離部本体部 2 4 a の外側の面の全部又は一部の領域と片部本体部 1 2 2 a の内側の面の間には接着剤層（図示せず）が設けられていて、同様に、分離部本体部 3 4 a の外側の面の全部又は一部の領域と片部本体部 1 3 2 a の内側の面の間には接着剤層（図示せず）が設けられている。これにより、外箱部 A 2 のスリーブ状部 1 0 5 は、内箱部 A 1 におけるスリーブ状部 5 の外側の面に沿って設けられ、例えば、正面部 1 0 の外側の面に沿って正面部 1 1 0 が設けられ、側面部 2 0 の外側の面に沿って側面部 1 2 0 が設けられ、側面部 3 0 の外側の面に沿って側面部 1 3 0 が設けられ、背面部 4 0 の外側

40

50

の面に沿って背面部 1 4 0 が設けられている。該接着剤層の接着力は、外箱部 A 2 の片部 1 2 2 を外側に回動させた際に、同時に分離部本体部 2 4 a の下側のミシン目 K 2 が破れて、分離部 2 4 が内箱部 A 1 から分離し、回動させた片部 1 2 2 に接着した状態で片部 1 2 2 に従動するように設定されていて、同様に、外箱部 A 2 の片部 1 3 2 を外側に回動させた際に、同時に分離部本体部 3 4 a の下側のミシン目 K 6 が破れて、分離部 3 4 が内箱部 A 1 から分離し、回動させた片部 1 3 2 に接着した状態で片部 1 3 2 に従動するように設定されている。

【 0 0 6 7 】

また、内箱部 A 1 と外箱部 A 2 とが接着された状態では、内箱部 A 1 の下端と外箱部 A 2 の下端とが同じ高さになるように形成されている。なお、内箱部 A 1 と外箱部 A 2 とは、分離部 2 4、3 4 の箇所以外は互いに接着されていない。以上のように、内箱部 A 1 は外箱部 A 2 の内側に収納した状態となっていて、内箱部 A 1 の底面部 5 0 及び開口部 1 2 5、1 3 5 の内側部分以外は外箱部 A 2 に被覆された状態となっている。つまり、外箱部 A 2 の下端の高さ方向の位置は、内箱部 A 1 の下端の高さ方向の位置と略同一であり、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を封止した状態では内箱部においては底面部 5 0 及び開口部 1 2 5、1 3 5 の内側部分のみが露出している。

10

【 0 0 6 8 】

なお、上記構成の包装箱 A は、内箱部 A 1 が上記のように折り畳むことができ、また、外箱部 A 2 がスリーブ状部 1 0 5 を有し、全体に略スリーブ状を呈しているので、包装箱 A の状態においても平板状に折り畳むことができ、正面部 1 1 0 を側面部 1 3 0 に対して略平行になるようにし、かつ、側面部 1 2 0 を背面部 1 4 0 に対して略平行になるようにすることにより、図 9 に示すように平板状に折り畳むことができる。

20

【 0 0 6 9 】

上記構成の包装箱 A の使用状態について説明する。包装箱 A を使用しない状況では、上記のように包装箱 A は平板状に折り畳むことができるので、折り畳んで保管しておく。

【 0 0 7 0 】

そして、包装箱 A を使用する際に、包装箱 A を組み立てる。すなわち、外箱部 A 2 における正面部 1 1 0 と背面部 1 4 0 とが互いに平行になり、側面部 1 2 0 と側面部 1 3 0 とが互いに平行になるようにするとともに、内箱部 A 1 における正面部 1 0 と背面部 4 0 とが互いに平行になり、側面部 2 0 と側面部 3 0 とが互いに平行になるようにし、底面部 5 0 がスリーブ状部 5、1 0 5 に直角になるようにすることにより包装箱 A が立体状に組み立てられる。

30

【 0 0 7 1 】

そして、図 1 1 に示すように、包装箱 A の上方から複数の被収納物（商品）G を内箱部 A 1 内に収納する。図 1 1 は、箱状の商品である例を示しているが、他の被収納物であってもよい。なお、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 は、予め上方に立設した状態になっていて、外箱部 A 2 の上方が開口した状態になっているので、被収納物 G はそのまま包装箱 A の上方から収納すればよい。その後、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を閉状態にして、接着テープ T を外箱部 A 2 の正面部 1 1 0 から上面を経て背面部 1 4 0 側にまで接着させることにより、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を封止する（図 1 2 参照）。

40

【 0 0 7 2 】

以上のようにして、被収納物を包装箱 A に包装したら、被収納物 G を収納した包装箱 A を被収納物 G を陳列する場所に搬送する。

【 0 0 7 3 】

その後、被収納物を陳列する場合には、外箱部 A 2 を内箱部 A 1 から分離する。すなわち、開口部 1 2 5 の位置に指を入れた後に片部 1 2 2 における片部先端部 1 2 2 b に指を係止させ、片部先端部 1 2 2 b を外側に引き出す。その際、折れ線 1 2 6 が設けられているので、容易に片部先端部 1 2 2 b を外側に引き出すことができる。その後は、片部先端部 1 2 2 b をさらに外側に引き出すことにより、図 1 3 に示すように、片部 1 2 2 を回動させることができる。つまり、横方向に形成された第 1 切目線 1 2 4 a と第 3 切目線 1 2

50

4 d の第 2 切目線 1 2 4 b が設けられている側とは反対側の端部間を結ぶ直線状の折れ線（側面部 1 2 0 の下辺に対して垂直方向の直線）が回動軸となって片部 1 2 2 が水平方向に回動する。

【 0 0 7 4 】

また、開口部 1 3 5 の位置に指を入れた後に片部 1 3 2 における片部先端部 1 3 2 b に指を係止させ、片部先端部 1 3 2 b を外側に引き出す。その際、折れ線 1 3 6 が設けられているので、容易に片部先端部 1 3 2 b を外側に引き出すことができる。その後は、片部先端部 1 3 2 b をさらに外側に引き出すことにより、片部 1 3 2 が回動させることができる。

【 0 0 7 5 】

なお、片部 1 2 2、1 3 2 が回動する際の回動軸となる折れ線の箇所には、罫線を形成しておかなくても片部 1 2 2、1 3 2 を回動させることにより自然と折れ線が形成されるが、予め該折れ線の箇所に罫線を形成しておいてもよい。

【 0 0 7 6 】

すると、外箱部 A 2 の片部 1 2 2 を外側に回動させた際に、同時に分離部本体部 2 4 a の下側のミシン目 K 2 が破れて、分離部 2 4 が内箱部 A 1 から分離し、回動させた片部 1 2 2 に接着した状態で片部 1 2 2 に従動する。同様に、外箱部 A 2 の片部 1 3 2 を外側に回動させた際に、同時に分離部本体部 3 4 a の下側のミシン目 K 6 が破れて、分離部 3 4 が内箱部 A 1 から分離し、回動させた片部 1 3 2 に接着した状態で片部 1 3 2 に従動する。なお、突出部 2 4 b、3 4 b と本体部 2 2、2 4 とは切込みを介して分離しており、分離部本体部 2 4 a、3 4 a のみが切目線を介して本体部 2 2、2 4 と連設されているので、分離部の分離を容易に行なうことができる。

【 0 0 7 7 】

そして、図 1 4 に示すように、外箱部 A 2 を上方に引き上げることにより、被収納物を収納した状態で、かつ、分離部 2 4、3 4 が分離した状態の内箱部 A 1 が残るので、被収納物を内箱部 A 1 に収納した状態で被収納物を陳列する。なお、外箱部 A 2 には、切欠部 K 1 4、K 1 8 が設けられていて、正面部 1 1 0 や側面部 1 2 0、1 3 0 の下端が外側と内側間を移動する余裕があるので、外箱部 A 2 を容易に引き上げることができる。また、被収納物の陳列状態においては、内箱部 A 1 における正面部 1 0 の高さ方向の長さは、背面部 4 0 の高さ方向の長さよりも小さく形成されているので、正面部 1 0 を正面側として陳列することにより被収納物をユーザから見やすくすることができる。

【 0 0 7 8 】

本実施例の包装箱 A によれば、図 1 や図 2 に示すように、上方が開口した包装箱 A に対して上方から被収納物である商品を収納して、上面部 1 6 0 ~ 1 9 0 を閉じて 1 つの接着テープ T により封止するのみであるので、容易に被収納物（商品）の梱包作業を行うことができる。

【 0 0 7 9 】

また、本実施例の包装箱 A によれば、片部 1 2 2、1 3 2 を外側に回動させて、分離部 2 4、3 4 を内箱部 A 1 から分離して外箱部 A 2 を上方に引き上げるのみで陳列することができるので、陳列作業を容易に行なうことができる。特に、本実施例においては、外箱部 A 2 の側面部 1 2 0、1 3 0 に開口部 1 2 5、1 3 5 が形成されているので、回動する片部 1 2 2、1 3 2 を外側に引き出しやすく、容易に片部 1 2 2、1 3 2 を回動させることができ、特に、内箱部に収納されている商品が外箱部の側面部の内側に沿ってびったり密接して収納されている場合でも容易に片部を外箱部の外側側面部から容易に引き出すことができる。

【 0 0 8 0 】

また、外箱部 A 2 の側面部 1 2 0、1 3 0 に開口部 1 2 5、1 3 5 が形成されているが、開口部 1 2 5、1 3 5 の全部又は一部を内側から被覆する突出部 2 4 b、3 4 b が設けられているので、開口部 1 2 5、1 3 5 からゴミ等が入るおそれがない。

【 0 0 8 1 】

また、特に、本実施例の包装箱 A においては、片部 1 2 2、1 3 2 が外箱部 A 2 の側面部 1 2 0、1 3 0 の下端位置よりも上側に設けられ、特に、片部 1 2 2、1 3 2 は、スリーブ状部 1 0 5 の下端の縁部に対して垂直方向の回動軸を中心に水平方向に回動するので、商品が収納された収納物を持ち上げて搬送する際に、誤って片部 1 2 2、1 3 2 を回動させてしまうことがない。つまり、仮に、分離部と接着した片部で、回動させるための片部をスリーブ状部 1 0 5 の下端から上方に伸びる平行な切込みにより形成した場合には、包装箱 A を持ち上げる際に該片部の位置を手にとって持ち上げると、誤って 該片部を回動させてしまい、内箱部 A 1 と外箱部 A 2 とを分離させてしまうおそれがあるが、本実施例の包装箱 A の外箱部 A 2 における片部 1 2 2、1 3 2 は上記のように構成されているので、そのようなおそれがない。

10

【0082】

なお、上記の説明において、外箱部 A 2 においては、スリーブ状部 1 0 5 を構成する正面部 1 1 0 と側面部 1 2 0 の境界位置に切欠部 K 1 4 が設けられ、正面部 1 1 0 と側面部 1 3 0 の境界位置に切欠部 K 1 8 が設けられているとして説明したが、同様の構成の切欠部を側面部 1 2 0 と背面部 1 4 0 の境界位置や側面部 1 3 0 と背面部 1 4 0 の境界位置に設けるようにしてもよい。なお、少なくとも、外箱部 A 2 におけるスリーブ状部 1 0 5 を構成する各部（正面部 1 1 0 と、側面部 1 2 0、1 3 0 と、背面部 1 4 0）の境界位置における少なくとも 2 つの境界位置に切欠部を設ければ、少なくともスリーブ状部 1 0 5 を構成する各部のうちの 3 つの下端において外側と内側間を移動する余裕ができるので、外箱部 A 2 を内箱部 A 1 に対して容易に引き上げることができる。また、スリーブ状部 1 0 5 を構成する各部の境界位置の切欠部は、切込みであってもよい。

20

【0083】

また、内箱部 A 1 の底面部 5 0 において、接続片部 6 0 が正面部 1 0 から連設され、接続片部 9 0 が背面部 4 0 から連設されているとしたが、逆に、接続片部 6 0 が背面部 4 0 から連設され、接続片部 9 0 が正面部 1 0 から連設された構成としてもよい。また、本体部 7 0 が側面部 2 0 から連設され、副体部 8 0 が側面部 3 0 から連設されているとしたが、逆に、本体部 7 0 が側面部 3 0 から連設され、副体部 8 0 が側面部 2 0 から連設された構成としてもよい。

【0084】

なお、上記の説明においては、内箱部 A 1 や外箱部 A 2 が 4 つの側面部を有するもの、つまり、平面視が四角形の形状のものとして説明したが、平面視が他の多角形のものでもよい。例えば、内箱部や外箱部における側面部が 6 つや 8 つのものでもよく、このように側面部の数が偶数の場合には、内箱部における 2 つの分離部は相対する側面部に設ける。例えば、平面視が六角形の場合には、互いに平行な側面部に 2 つの分離部を設ける。また、側面部の数が奇数の場合には、一方の分離部が設けられた側面部と平行な対向する側面部がある場合には、その側面部に他の分離部を設け、平行な側面部がない場合には、一方の分離部が設けられた側面部と最も平行に近い（つまり、該側面部となす角度が最も小さい）側面部に他の分離部を設ければよい。

30

【図面の簡単な説明】

【0085】

40

【図 1】本考案の実施例に基づく包装箱の前方斜視図である。

【図 2】本考案の実施例に基づく包装箱の後方斜視図である。

【図 3】本考案の実施例に基づく包装箱の分解斜視図である。

【図 4】図 1 の P - P 線における断面図である。

【図 5】本考案の実施例に基づく包装箱の底面図である。

【図 6】内箱部の展開図である。

【図 7】図 6 における要部説明図である。

【図 8】外箱部の展開図である。

【図 9】包装箱を折り畳んだ状態を示す斜視図である。

【図 10】包装箱を折り畳んだ際の内箱部の折り畳み状態を示す斜視図である。

50

【図 1 1】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 1 2】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 1 3】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【図 1 4】包装箱の使用状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

【 0 0 8 6 】

A 包装箱

A 1 内箱部

A 2 外箱部

5、1 0 5 スリーブ状部

10

1 0、1 1 0 正面部

2 0、3 0、1 2 0、1 3 0 側面部

2 2、3 2 本体部

2 4、3 4 分離部

2 4 a、3 4 a 分離部本体部

2 4 b、3 4 b 突出部

4 0、1 4 0 背面部

4 2、1 4 2 糊代部

5 0 底面部

6 0、9 0 接続片部

20

7 0 本体部

8 0 副体部

1 2 2、1 3 2 片部

1 2 4 a、1 3 4 a 第 1 切目線

1 2 4 b、1 3 4 b 第 2 切目線

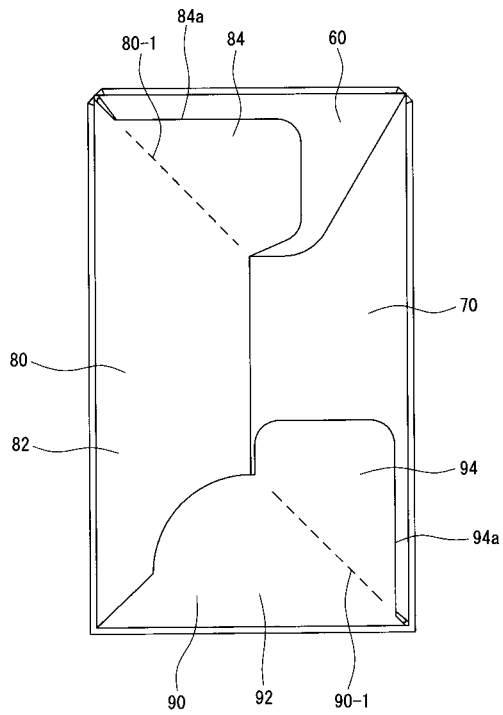
1 2 4 d、1 3 4 d 第 3 切目線

1 2 5、1 3 5 開口部

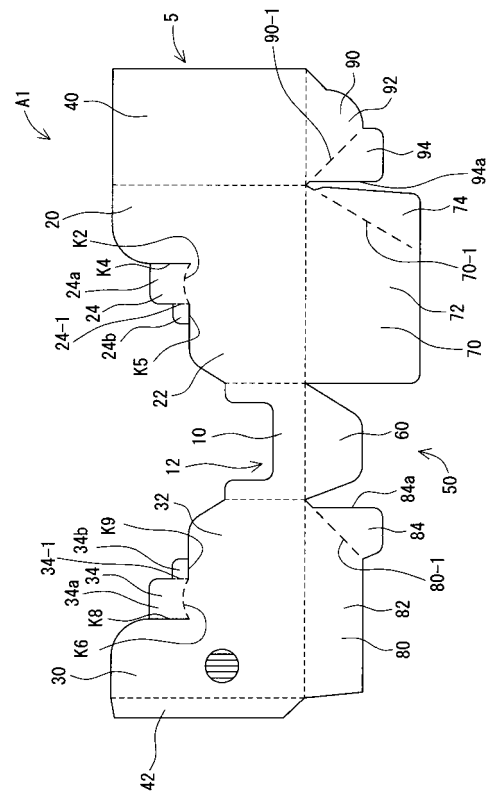
1 2 4 c、1 2 5 a、1 2 5 b、1 3 4 c、1 3 5 a、1 3 5 b 辺部

1 6 0、1 7 0、1 8 0、1 9 0 上面部

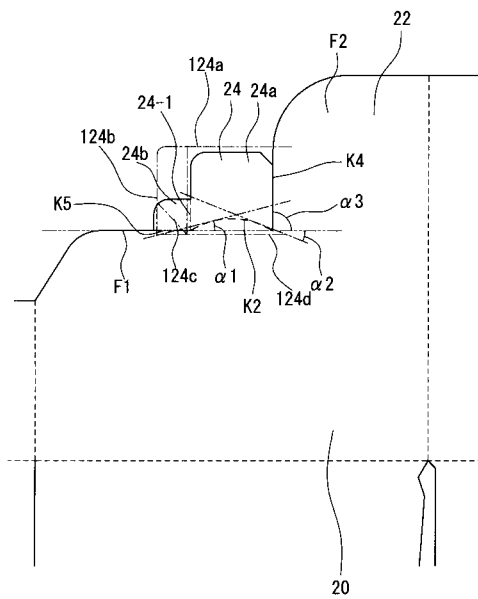
【 図 5 】



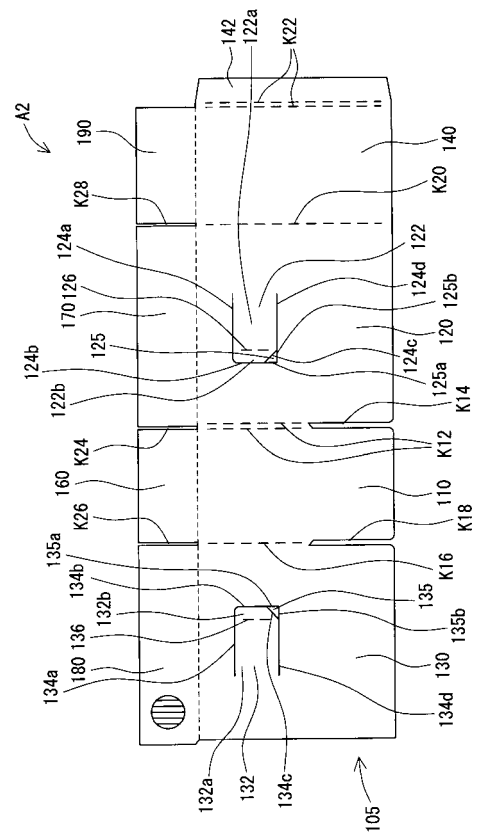
【 図 6 】



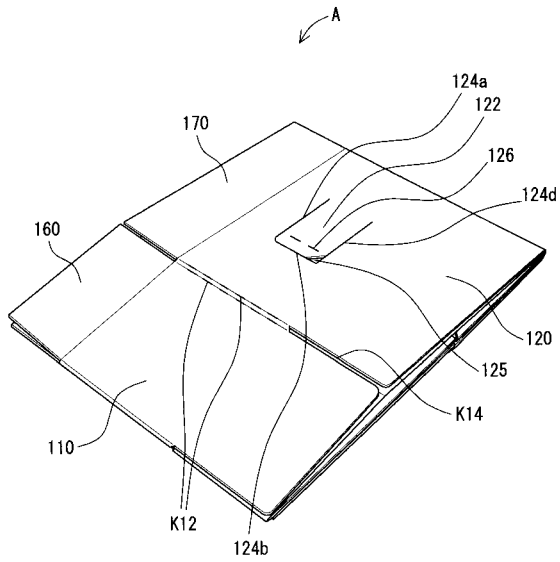
【 図 7 】



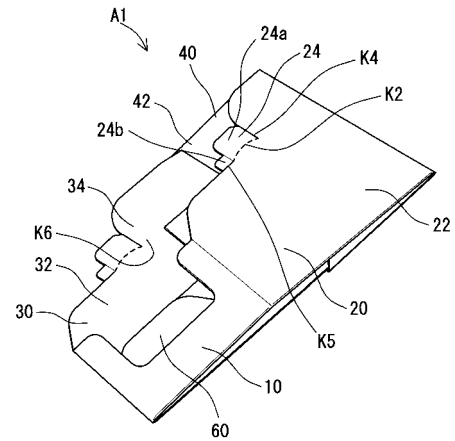
【 図 8 】



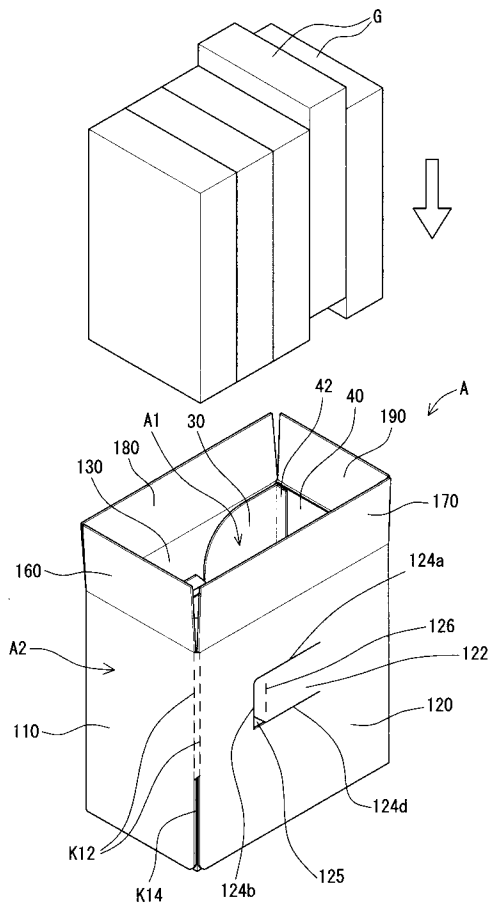
【図 9】



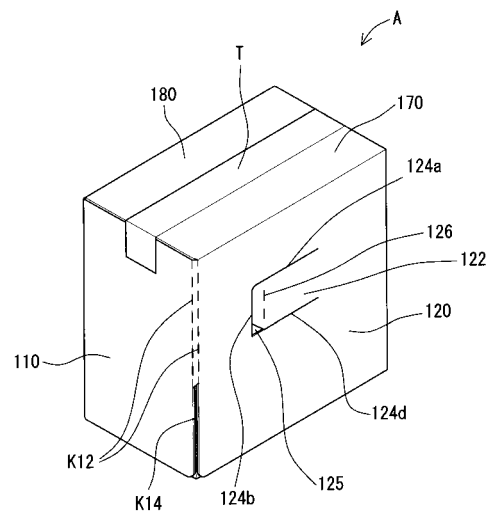
【図 10】



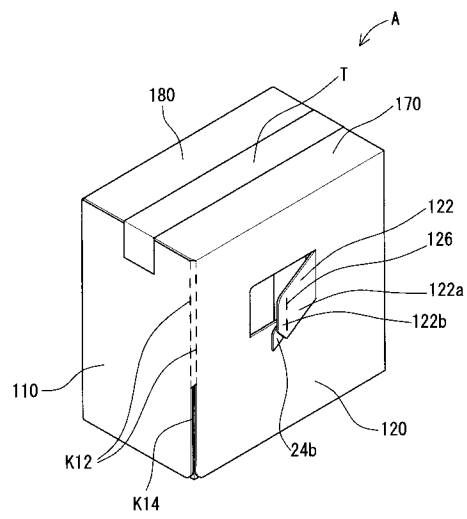
【図 11】



【図 12】



【図 13】



【図 14】

